

# 「自然と人間の哲学」

～＜自然＞と＜人間＞の関係を  
＜時間＞論を通して問う～

講師：内山 節（哲学者）

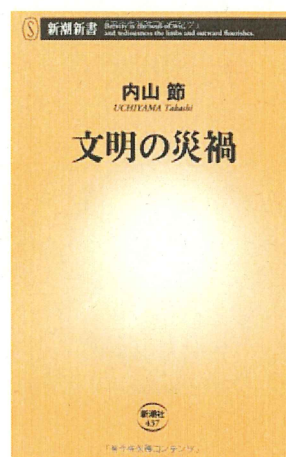
日時：6月27日（土）13:30～（北九州校）

6月28日（日）14:00～（福岡校）

## ＜講師紹介＞

1950年東京生まれ。哲学者。東京都立新宿高等学校卒業後、大学へは進学せず、独学で哲学を研究。1970年代に入った頃から、東京と群馬県の山村・上野村との二重生活をしている。立教大学大学院教授を経て、現在、NPO法人・森づくりフォーラム代表理事。

自然と自然の関係、自然と人間の関係、人間と人間の関係が相互性を形成しながら、どのような自然の世界と人間の世界をつくりだしているのか、という問題意識に基づきながら、独自の存在論、自然哲学、時間論を展開している。主な著書に『自然と人間の哲学』（岩波書店、1988年）、『時間についての十二章——哲学における時間の問題』（岩波書店、1993年、のち岩波人文書セレクション、2011年）、近著に『文明の災禍』（新潮新書、2011年）などがあるが、2014年より『内山節著作集』（全15巻、農山漁村文化協会）が刊行されている。



内山先生の著作は大学入試でも出題されており、『時間についての十二章』が1995年度東京大学文科、1999年度京都大学で、『共同体の基礎理論——自然と人間の基層』（農山漁村文化協会、2010年）が2011年度早稲田大学法学部でそれぞれ出題されている。